

かずたろう
中村壱太郎 (歌舞伎俳優)・佐々木美智子バレエ団
West meets East 愛の表現者たち

—— 2017年2月8日・クラブ関西 ——



佐々木美智子バレエ団

関西・大阪を拠点に活躍する優れたアーティストを紹介し、アーティスト支援の輪を広げることを目的に開催される「アート・アセンブリー（関西・大阪21世紀協会主催）」第8回を迎えた今年は、平成27年度大阪文化祭賞優秀賞を受賞した佐々木美智子バレエ団と、同奨励賞を受賞した歌舞伎俳優の中村壱太郎さんを招き、日本と西洋の舞台芸術の粋が披露された。

中村壱太郎さんは中村鴈治郎さんの長男で、母は日本舞踊吾妻流宗家の吾妻徳穂さん。2014年には吾妻徳陽として七代目家元を襲名し、近年は映画での振付の創作やラジオのパーソナリティーなどでも活躍する歌舞伎界・日本舞踊界の若きリーダーとして注目されている。アート・アセンブリーでは、長唄舞踊「七福神」を披露し、80人を越える参加者を魅了した。

佐々木美智子バレエ団は、1979年に東大阪市でスタジオを開設し、98年にバレエ団を結成。以来、毎年公演を行い、2003年度文化庁芸術祭優秀賞をはじめ、国内外の数々のコンクールで入賞し、優れたダンサーを数多く輩出して国際的にも高く評価されている。今回は、「ドン・キホーテ」や「白鳥の湖」などのクラシックに加え、アニメ「アルプスの少女ハイジ」「ルパン三世」などで構成したプチ・ガラコンサートを披露。会場は華やかで愛らしい雰囲気にも包まれ、参加者はダンサーの息づかいを間近で楽しんだ。



左から佐々木洋三、中村壱太郎さん、佐々木美智子さん

また、当協会専務理事の佐々木洋三の司会で、中村壱太郎さんと同バレエ団を主宰する佐々木美智子さんによる「West meets East 愛の表現者たち」と題するトークショーもあり、歌舞伎とバレエの愛情表現や、舞踊としての共通点や相違点、指導法などが紹介された。壱太郎さんは歌舞伎の愛情表現について「愛し合う男女が死んで一緒になることで幸せになる」と心中物について紹介すると、佐々木さんは「歌やセリフのないバレエでは、愛憎はマイム（所作）で表現する」と、身振り手振りを交えて解説。「日本舞踊は重心を下げてすり足

で動き、バレエは重心を上げてつま先立ちで動くという大きな違いがあるが、体幹が揺るがないのはどちらも同じ。日舞は狭い空間で静かな動きで〈間〉の美しさを見せるが、バレエは舞台の端々まで使って大きく激しく動き回る（佐々木さん）」「日舞もバレエも、長い歴史のなかで培われ、先輩方が受け継いでこられた。その至芸の魅力を多くの方に楽しんでほしい（壱太郎さん）」と会話が弾み、参加者は普段直接聞く機会がない話に、興味深く聞き入った。終演後は交流会が開催され、参加者は出演者と直接ふれあい、さまざまな話題に花を咲かせ会話を楽しんだ。



中村壱太郎さん



出演者とともに